

学校名	飯能市立南高麗中学校
所在地	飯能市大字下直竹1061
電話	042-972-3808

## 1 本校の概要

本校は、1年生21名、2年生17名、3年生15名の計53名の生徒数の学校である。蔵書は5400冊程度の冊数があり、学校の規模に対して多くの数の本がそろっており、種類も豊富であるが、生徒の人数が少ないため、図書館の本の動きは少ない。

## 2 本校の実践

### (1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ 図書整理員を活用した取組
- ・ 学校図書館等の環境整備の工夫

### (2) 実践の概要

本校では、図書館の本と学級文庫の連動、朝読書の取組、ラブブックキャンペーン（本を読んだページ数をカウントし、多く読めた生徒を表彰する）の取組を行っている。

#### ア 図書館の本と学級文庫の連動

本校では、図書整理員が精選した図書館の本を学級文庫に入れるという取組がなされている。図書整理員の選んだ本は生徒からも好評であり、朝読書や休み時間などの様々な場面で生徒が手に取って読んでいる。シリーズの作品の第1作のみ学級文庫に入れるといったこともあり、第1作目を読み終えた生徒が、第2作目以降を借りに図書室に訪れるといった効果も生まれている。

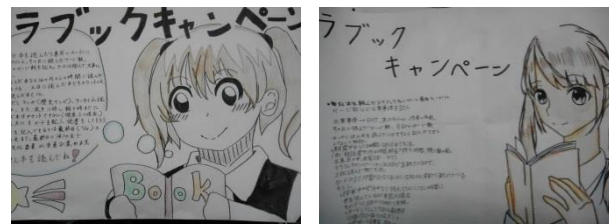
#### イ 朝読書

本校では、朝の8時18分から8時28分までを「朝読書の時間」と定めて、各自が読書を行う時間を設けている。その際に読む本は、活字の本と限定している。どの学年も静かな環境で取り組んでいる。

#### ウ ラブブックキャンペーン

本を読むきっかけとして、11月中旬の9日間を定

めて、その期間に読んだ本のページ数を記録し、多く読んだ生徒を表彰するといった取組を行っている。



## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

ア 図書整理員の工夫によって、図書館を毎日10人近い人数が利用し、図書館の本を借りていく生徒も毎日いるという状況である。本校の生徒人数が53人であることを考えれば、割合としては高いと言える。

イ 朝の会、その後の授業の時間を、落ち着いた静かな環境で始めることができている。朝読書で読みたい本を自ら探してくる生徒も多い。

ウ ラブブックキャンペーン期間中に、9日間で、2228ページ読んでくる生徒もいた。読書に対する意識の高さは、期間中の読書ページ数にも表れている。

### (2) 課題

ア 学級文庫の入れ替えの頻度があまり多くなかったため、多くの図書館の本を生徒に教室で読んでもらうことができなかった。様々な本を読ませるために、入れ替え頻度を上げたい。

イ ラブブックキャンペーン期間が終わると、読書量が落ちてしまう生徒が見られた。ラブブックキャンペーンの他にも、生徒が読書に向かう取組を継続的に行っていく必要がある。

### (3) おわりに

読書の習慣を身に付けさせることは、生徒にとって大きな財産になる。したがって、読書に関する取組を積極的に行うことは、大きな意義があると言える。様々な実践例を研究し、本校でも実践していきたい。